

## 平成24年度 2学期終業式式辞

今日で2学期が終わります。2学期の学習については、成績や模試の結果で皆さん一人ひとりが今後何をすべきか十分承知していることと思います。3学期に向けて各自じっくり考えてください。

この秋の部活動を振り返ります。陸上男子では2年西村君が100m、200mで県1位、卓球女子、アーチェリー男子が秋季大会で優秀な成績をあげてくれました。卓球女子団体とダブルスのペアが12月26、27日に近畿大会に出場します。文化部では演劇部が県最優秀となり、近畿大会では優秀賞という素晴らしい結果を出してくれました。美術部では2年谷口さんの作品が近畿高文祭に出展されました。将棋では1年箕君、村上さんが県大会で優勝し、来年1月31日より福岡県で開催されるに全国大会に出場します。近畿大会、全国大会での活躍を期待しています。

次に学校行事では、1年生はボランティア体験、SSHフィールドワーク、2年生は北海道修学旅行など素晴らしい体験をしてくれました。

また、昨日、1年生16名が「東京大学連携講座」に参加し帰ってきました。2日間、本校OBの東京大学教授、高田毅士先生より建築やデザインについての講義を受け、リニューアルした東京駅や東京フォーラムなど日本を代表する建築についても説明を受けました。東大の現役OBや東京姉水会の会長、副会長様たちからも激励をいただきました。全員、素晴らしい体験をし、たくさんの収穫を得て帰ってきました。

さて、3年生は1月19、20日に大学入試センター試験に臨みます。あと約1ヶ月。体調管理に気をつけてベストを尽くし、悔いのない結果を残してください。

それでは、今日は今年度ノーベル生理学・医学賞を受賞された京都大学教授の山中伸弥先生の話を紹介します。先生の研究はiPS細胞です。iPS細胞とは、ほぼ無限に増殖して人間の神経、筋肉、骨などあらゆる臓器や皮膚などの細胞に変わることが可能な細胞で、再生医療への道を大きく切り開くものとして全世界から期待されています。

山中先生はある本の中で、アメリカのグラッドストーン研究所に留学した時に指導を受けたロバート・メリー所長のことばを紹介しています。メリー所長は「研究者として成功する秘訣はVWだ。VWさえ実行すれば、君たちは必ず成功する。研究者にとってだけでなく人生にとっても大切なのはVWだ。VWは魔法の言葉だ」と山中先生に語りました。VWのVはVisionのVで、WはWork hardのWのことです。長期的な目標を持ち、一生懸命努力するという意味です。成功するためにはヴィジョンとハードワークが必要で、どちらが欠けてもだめだということです。日本人は、ハードワークは得意ですが、いつのまにか目的を見失い、何のために働いているのか分からない状態になってしまうことがあると山中先生は言います。山中先生にとってのヴィジョンとは難病に苦しむ多くの人々を救うことです。「ノーベル賞は私にとって過去になりました。・・・これからは、一科学者としてやるべきことを粛々とやりたい」という受賞後の言葉に覚悟のほどが表れています。

皆さん、自分は何のために学んでいるのかと自問してみてください。ヴィジョン（目的）なくしてハードワークへの意欲は生まれるでしょうか。皆さんにとって目標の大学に進学することは近い未来のヴィジョンでしょう。その後、大学に入ってから学ぶことをその先の遠い未来にどう繋げていくのか。そのヴィジョンを持っているでしょうか。ヴィジョンがあれば、きっと日々のハードワークはたとえ苦しくてもやりがいのあるものになるでしょう。将来、一人の人間として自分や家族の幸せのためだけでなく社会の人々の幸せのためにどのような貢献ができるか。立ち止まって、自分のヴィジョンについてじっくり考えてみることはとても大切なことだと思います。

さて、もうすぐ新しい年になります。どうか良い年を迎えてください。

それでは、これをもって式辞とします。

平成24年12月21日

滋賀県立虎姫高等学校長 西嶋博純